

各位

上場会社名 株式会社 ホーブ
 代表者 代表取締役社長 政場 秀
 (コード番号 1382)
 問合せ先責任者 取締役経営管理部長 吉田 周史
 (TEL 0166-83-3555)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成29年8月9日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成30年6月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成29年7月1日～平成29年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,420	93	93	80	105.93
今回修正予想(B)	2,257	△14	△12	△15	△19.87
増減額(B-A)	△163	△108	△105	△95	
増減率(%)	△6.7	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成29年6月期第2四半期)	2,165	△37	△32	△38	△50.70

平成30年6月期通期連結業績予想数値の修正(平成29年7月1日～平成30年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,135	63	63	47	62.88
今回修正予想(B)	3,873	△40	△38	△46	△60.46
増減額(B-A)	△262	△104	△101	△93	
増減率(%)	△6.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成29年6月期)	3,722	△183	△177	△409	△537.48

平成30年6月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成29年7月1日～平成29年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,375	91	91	79	104.22
今回修正予想(B)	2,216	△16	△14	△16	△21.73
増減額(B-A)	△158	△108	△105	△95	
増減率(%)	△6.7	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成29年6月期第2四半期)	1,927	△52	△46	19	25.35

平成30年6月期通期個別業績予想数値の修正(平成29年7月1日～平成30年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,040	48	48	37	49.72
今回修正予想(B)	3,782	△56	△53	△56	△73.78

増減額(B-A)	△258	△104	△102	△94	
増減率(%)	△6.4	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成29年6月期)	3,444	△208	△200	△367	△481.71

修正の理由

(第2四半期累計期間連結業績予想修正の理由)

主力であるいちご果実・青果事業のいちご果実販売において、夏秋期は従来の業務用としての販売に加え、食味の良い新品種「夏瑞／なつみずき」(品種登録申請名「ペチカほのか」)を生食用として、販売の拡大に努めてまいりました。生食用の販売数量については前年同期を上回りましたが、主に大手菓子メーカーなどからの受注量減少により、業務用の販売数量が当初予定に至らず、売上高、利益ともに予定を下回ることとなりました。

また、最需要期となるクリスマス期におきましては、10月の記録的な長雨により促成いちごの生育が停滞したことと、12月の断続的な強い寒気の影響を受けることとなりました。これによりいちごの市場への入荷量が伸び悩み、12月のいちご市場相場価格は、高騰した前年よりもさらに高値で推移いたしました。この結果、市場相場価格に応じて販売する取引先への販売価格が上昇したことで、売上高は当初予定を上回りました。一方で利益面においては、固定価格での販売先に対し、仕入価格の上昇が利益圧縮の要因となり、予定していた利益を確保することができませんでした。

さらに、馬鈴薯事業の種馬鈴薯販売において、秋作向けである九州産の生育状況が悪く、予定していた販売数量を確保することができませんでした。また、春作向けとなる北海道産の仕入数量は台風被害を受けた昨年と比べ確保することができましたが、他県の作況が悪かったため、予定していた販売数量には至りませんでした。利益面では、一部仕入価格が上昇したことで利益を圧縮する結果となりました。また、青果馬鈴薯においては、市場価格が低迷していたことで荷動きが悪く、販売を控えることとなりました。これにより売上高、利益ともに予定を下回ることとなりました。

以上の理由により、第2四半期累計期間連結業績予想を修正いたします。

(通期連結業績予想修正の理由)

主力であるいちご果実・青果事業においては、いちご果実の最需要期であります12月のクリスマスの影響により第2四半期連結会計期間までの仕入及び販売が、他の四半期連結会計期間に比べ多くなる季節的変動があります。また、馬鈴薯事業において販売の中心となる春作種馬鈴薯は、その植付時期の影響で販売時期が第2四半期連結会計期間に集中する傾向にあります。このため、第2四半期までの業績を踏まえて下半期の見通しを勘案した結果、第2四半期までの落ち込みをカバーするには至らないと予想されることから、連結の業績予想を上記のとおり修正いたします。

(第2四半期累計期間個別業績予想修正の理由)

第2四半期累計期間連結業績予想修正の理由と同様であります。

(通期個別業績予想修正の理由)

通期連結業績予想修正の理由と同様であります。

以上